

生きものシンフォニー

いのちがやくなごや

令和5年3月

39号

特集

第25回自然系調査研究機関連絡会議

2022年11月21日(月)・22日(火)

会場：名古屋商工会議所、藤前干潟(稲永ビジターセンター、野鳥観察館)



基調講演の様子(名古屋商工会議所)

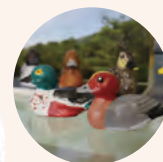
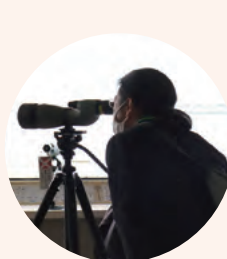


なごや生物多様性センターによる出張展示



講演の様子(稲永ビジターセンター)

全国54の機関を構成員とする「自然系調査研究機関連絡会議(通称、NORNAC)」の25回目となる連絡会議が、なごや生物多様性センターをホスト機関として、名古屋市で開催されました。1日目には基調講演のほか、当センターを含む13の調査研究機関から、自然環境や野生動植物の保全に係る調査研究・活動事例紹介が行われました。2日目には、連絡会議に加えて、藤前干潟でのエクスカッションが実施されました。今回はその模様をお伝えします。



藤前干潟にいる野鳥を観察(野鳥観察館)

CONTENTS

特集

第25回自然系調査研究機関連絡会議 P1~2

TOPICS	「森林保全体験を通して生物多様性を学ぶバスツアー」を開催しました	P3
	蛇池で池干しを実施しました	P4
	令和4年度 主な行事等の実績	P5
活動紹介	名東自然倶楽部	P6
掲示板	機関誌「なごやの生物多様性」第10巻を発行しました	P6



NORNAC25 第25回自然系調査研究機関連絡会議 各機関との交流や情報交換も



会場に『なごやのざんねんじゃない!いきもの』展の一部を展示

コロナ禍により、実地開催が3年ぶりとなった今回の会議。1日目の調査研究・活動事例発表会では、オンラインとの併用で行われ、関係機関から一般の方まで約100人が参加・視聴しました。

11/21(月) 調査研究・活動事例発表会

基調講演

里地里山の生物多様性を 守る取り組み

講師

名古屋工業大学教授
増田 理子さん



自然を守るには、
適度な間伐をして
利用することも
重要です

愛・地球博の際に、重要な里山として自然保護地区に指定された海上の森は、オオタカやムササビ、ギフチョウが見られるなど、生物多様性の宝庫でした。しかし保護されてから、生物多様性が減少していることが判明しました。

どのような保全をすれば豊かさを取り戻せるのか。実験区画を設けて、樹木の伐採による光や水環境の測定・分析などを通じた調査研究結果とともに解説された増田さん。かつての里山のように、人間がある程度自然に手を加えて利用していくことも必要だということを解説されました。



13機関による口頭発表とポスター発表

各機関が調査研究・活動事例紹介を行うなか、当センターからは、名古屋市科学館と協働で実施した企画展示『なごやのざんねんじゃない!いきもの』展(※生きものシンフォニー 33号で特集されました)に関する発表がありました。他機関と協働し、センターに収蔵されている標本を用いた出張展示を実施することで、なごやの生物多様性の重要性を普及啓発してきた事例が紹介されました。



口頭発表▲

ポスター発表▼



11/22(火) 連絡会議・エクスカーション

2日目は、関係機関による連絡会議を開催。続くエクスカーションは、ラムサール条約登録20周年を迎えた藤前干潟で実施。藤前干潟を守る会・亀井浩次さんの講演では、ごみ埋め立て問題をきっかけに活動が始まったことや、ガタレンジャーなどの取り組み、今後の課題などが伝えられました。

参加者は、その後、稲永ビジターセンターや隣接する野鳥観察館を見学。2日間の会議を経て、互いの発表に刺激を受けたり、交流を深めたり、今後の活動への意欲向上や弾みにつなげていました。

亀井浩次さん
(藤前干潟を守る会)



講演の後は和やかに交流(稲永ビジターセンター)



森林保全体験を通して生物多様性を学ぶ バスツアーを開催しました

2022年10月17日に「森林保全体験を通して生物多様性を学ぶバスツアー」を開催しました！

小学5年生～中学3年生のお子さんとその保護者総勢24名で岐阜県下呂市にあるブナ林(岐阜大学附属位山演習林)へ向かいます。行先は名古屋の水源の一つでもある飛騨川の上流域です。林の森林保全体験を通して森と水のかかわりや、森林の重要性を学びます。

案内してくれたのは、現地で活躍するNPO法人森のなりわい研究所の伊藤栄一さん。

片道150km、飛騨川沿いを上流に向かって走る道すがら、車窓から見える土地の歴史や植生の変化について等、バスの車内で興味深い話を伺います。



伊藤栄一さん

現地に着くとまずは腹ごしらえ！秋晴れの空のもと、ブナ林を前にして地元の食材がたっぷり詰まったお弁当をいただきます。伊藤さんプロデュースのこだわりのお弁当は、容器から環境に配慮！曲げわっぱのお弁当箱にはからあげやフレッシュトマト、卵焼きに加え、イワナのフリットやワラビの梅和えなど、地元の食材がぎっしり詰まっており、大人も大満足の美味しいお弁当でした。



美味しくて
大満足！



ブナ林の中で川の始まりを見る

さあ、お腹が満たされたところで、まずは名古屋の水道を支える飛騨川、その川の最初の一滴を辿ります。ササ藪をかきわけた先にある窪地を覗いてみると、ちいさな水たまりが。山肌の柔らかな土から静かに水が染み出ていました。

これが川の始まり。「この一滴がみんなの蛇口に届くんだよ」との伊藤さんの言葉に耳を傾けながら観察しました。



始まりの一滴を観察

森のお土産

最後に、森のなかで拾った面白い形の枝や実でストラップを作りました。「森とのつながりになれば」と伊藤さん。参加者のみなさんは、楽しそうに枝を切ったり、良い形のどんぐりを探したりしていました。



ブナの実が
思い出になった。

参加者の声

ササを刈るのが
楽しかった。

自然の大切さや
水がどうやって川や海に繋がるかが
分かってよかった。

曲げわっぱのお弁当が
おいしかった。

森と水の関係

川が流れ続けるためには森の力が必要です。雨水は樹の幹を伝うことで水流がゆるやかになり、森の土にゆっくり浸透します。沢山の微生物が落ち葉を分解してふかふかになった森の土がスポンジのような役割を果たし水を貯えるため、川の水は途絶えないのです。



樹齢200年を超えるブナの樹

森林保全体験

樹齢200年を超えるブナの樹の周りには、ちいさなブナの幼木が育っていました。私たちのくらしに恵みをもたらす森の樹々が大きく育つためには光が必要です。十分な光を当てるため、幼木を覆い、日陰をつくってしまうササを刈る作業を行いました。



ササを刈る参加者



ブナの幼木

蛇池で池干しを実施しました

2022年11月19日に、西区蛇池公園の蛇池で池干しを実施しました。池には「蛇池の伝説」と呼ばれる言い伝えがあり、中には織田信長に由来する話も。(当センターのウェブサイト「なごや生きものライブラリー」生きものコラムで紹介しています)

伝説については割愛するとして、問題となっているのは、ここ数年で地元の方に親しまれていた水生植物のハスが減少するなどし、池の景観が大きく変わってしまったことです。原因の一つとして考えられるのは、池に遺棄された外来生物の存在です。そこで今回、外来生物のアカミミガメやコイなどを駆除するために、池干しを行いました。

さらに池干しと併せて、地元の方に「蛇池の伝説」について講話をしていただいたり、生きものについてのトークタイムを設けたりと、見学者に地元の池や生態系へ

の理解を深めてもらうことができました。

地曳網^{じびきあみ}で採集した生きものを間近で見ってもらうブースは見学者にとっても好評で、特に北アメリカ原産の特定外来生物「スポッテッドガー」は、その特徴的な見た目から多くの人々が関心を寄せ、人だかりができる程でした。

外来種を遺棄することも問題ですが、さらに驚いたのがごみの量!! 捨てられた釣り針でケガをしそうになったり、不法投棄されたバイクが出てきたりと様々……。一緒に従事してくれた学生と、池の清掃も行いました。

池にごみを捨てない! 生きものを放さない! 身近な自然に敬意を持って保全していきたいですね。

今後もさまざまな機会を通して、自然や生態系への関心が広まり自然環境の保全が進むことを期待したいと思います。

(生物多様性市民協働推進員 宇地原 永吉)



見学者が集まる中での地曳網^{じびきあみ}作業



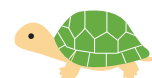
多くの人が集まったブース



捕獲したスポッテッドガー(全長60cm以上)



池から取り出したごみの一部



令和4年度 主な行事等の実績

センター …なごや生物多様性センター主催 なごびオ …なごや生物多様性保全活動協議会主催

【 】内は開催場所。場所の記載のない行事はなごや生物多様性センター。

日 付	名 称【開催場所】 主催
令和4年4月～5月	戸田川緑地へ出展「なごやの外来種」【農業文化園】
5月～6月	西区役所へ出展「なごやの外来種」【西区役所】
5月8日	なごや生きもの報告会【名古屋市立大学】 なごびオ
5月22日	みんなで生きものを学ぼう! センター
6月4日	オオキンケイギク抜き取り会【植田川河川敷】 なごびオ
7月16日	愛知サマーセミナーに参加「なごやの外来種」【東邦高校】
7月23日～8月8日	なごや生物多様性サマースクール2022(11講座)【各所】 なごびオ
7月24日	ビオトープの小さな生きもの観察会【センター】 センター
8月～	名古屋市科学館へ出展「食われるだけじゃない! いきもの」【名古屋市科学館】
8月30日	生きもの調査隊 アリの種類を調査せよ!【センター】 センター
9月17日	環境デーなごや2022へ出展【中区 久屋大通公園】
10月1日	秋のビオトープ観察会 季節の昆虫を見つけよう!!【センター】 センター
10月8日～10日	なごや生きもの一斉調査2022 ～陸貝編～【66地点】 なごびオ
10月15日	森林保全体験を通して生物多様性を学ぶバスツアー【下呂市】 センター
10月29日	センターまつり/ユースひろば【センター】 センター
11月19日	藤前干潟20周年イベントへ出展【稲永ビジターセンター】
11月19日	池干し【西区蛇池】
11月20日	天白区イベントへ出展【天白区であい公園】
11月21日～22日	自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC25) ※ホスト機関として参加
12月10日	愛知県環境調査センターへ出展【愛知県環境調査センター】
令和5年2月17日	第41回生物多様性カフェ「哺乳類解剖の実況中継」【ウェブ開催】 センター
3月14日	希少種シンポジウム ～なごやの生きものとレッドリスト～【鯉城ホール】 センター
3月26日	隼人池公園さくら祭りへ出展「隼人池の生きもの」【昭和区隼人池公園】
3月	生息域外保全エリアの整備体験【センター】 センター
3月～	庄内緑地へ出展「なごやの外来種」【グリーンプラザ展示コーナー】
3月	機関誌「なごやの生物多様性」第10巻発行 センター
通年	出前講座・見学対応等【各所】 センター
通年	アライグマ防除【各所】 センター
通年	市民協働による調査保全活動【各所】 なごびオ
通年	定例会(偶数月第一水曜日)【ウェブ開催】 なごびオ
通年	植物標本作成講座【各所】 センター
通年	昆虫標本作成講座【センター】 センター



なごや生物多様性保全活動協議会

なごや生きもの報告会



なごや生物多様性保全活動協議会の活動報告会を開催します。令和4年度の調査等で得られた情報をもとに、最新のなごやの生きものについてお伝えします。申込方法は下記ウェブサイトに掲載されています。ぜひお申し込みください!

日時 令和5年5月14日(日) 午後0時45分から4時45分

会場 名古屋市立大学 桜山キャンパス さくら講堂 **定員** 200名(抽選)

※新型コロナウイルス感染状況により、開催方法が変更又は中止となる場合があります。
最新情報は協議会ウェブサイト(<https://bdnagoya.jp/>)をご覧ください。

だなも
「生物多様性キャラクター応援団」



活動紹介

名東自然倶楽部

名東自然倶楽部は、名東区の猪高緑地で活動するいくつかの団体が集まり、1998年に設立されました。名古屋市と猪高緑地に関して「緑のまちづくり活動に関する協定」を結び活動をしています。

猪高緑地は名古屋市の東の端にある66.2ヘクタールの緑地です。標高50m～110mと起伏に富み、ここが名古屋かと思われるほどの自然豊かな緑地です。

現在9つのグループが活動しています。里山保全グループ(以下、グループはGと表記)、炭焼きG、水の環G、田んぼG、畑G、竹クラフトG、自然観察G、調査G、総合学習Gです。それぞれのグループが、猪高緑地の自然を保全するための色々な活動や自然を紹介する活動を行っています。また、グループ間で協力したり、倶楽部全体として、それぞれのスキルを活用する保全活動や、参加者に自然の素晴らしさを知って頂いたり活動の体験をして頂くイベントを開いています。

<http://sizen.ciao.jp/index.html>



親子田んぼ体験会

約120名の親子が田植えから収穫祭まで田んぼの体験をします。

この体験会以外に、保育園や幼稚園など9つのチームが稲作の体験をしています。田んぼGは水の確保の為に堤体の補修や、水路の補修、水量管理、農機具のメンテナンス等を行い、各チームが稲作を体験できるように整備しています。

竹刈り体験会

7班に分かれ、竹の浸食の実態を感じて頂き、竹刈りの体験をして頂いています。

この体験会以外にも、企業の皆さんに竹刈りの体験をして頂くなどのイベントを行っています。



竹チップの敷設

竹チップを作って、散策路に敷設しています。散策路の削れを防止し、保水力を向上させる事により、水循環の改善を図っています。また、泥濘低減と伐った竹を積み上げる事による悪影響の低減を図っています。

自然観察会

毎月第四日曜日(8月と12月はお休み)に自然観察会を行っています。自然に親しんで頂く事は、自然保護の窓口と思っています。



掲示板

機関誌「なごやの生物多様性」 第10巻を発行しました

なごや生物多様性センターでは、地域で実践されている調査・保全活動等で得られたなごやの生物多様性に関する情報を、正確に記録し広く発信するため機関誌を発行しています。

第10巻では、生きものの生息・生育場所としてのため池に関する情報など、原著論文をはじめ18報が掲載されています。ぜひご覧ください。

機関誌は名古屋市公式ウェブサイトや名古屋市立図書館でご覧いただけます。

第11巻 投稿募集

2023年度に発行予定の第11巻の投稿を募集します。生物多様性に関わる活動を行っている市民、保全団体、専門家、学校、企業の方などなたでも幅広い分野から投稿できます。投稿規定や期限など、詳しくはウェブサイトをご覧ください。

皆さまからの投稿をお待ちしています。

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104(平日 8:45～17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー 検索

<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式ウェブサイト

<https://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会

<https://bdnagoya.jp/>

地下鉄塩釜口駅
2番または3番出口から
徒歩5分



生きものシンフォニーのバックナンバーは、なごや生物多様性センターのウェブサイト「なごや生きものライブラリー」でご覧いただけます。